

伊東市民病院で ございます。

Vol.26



リハビリ作品



リハビリ作品



Doctor's Essay Vol.3 救急科 奥村澄枝

すこやか健康講座開催告知

Cover of this issue | リハビリの患者さんたちが心を込めて作った作品

左上 | お月見 右上 | 花火 左下 | 秋の風景 右下 | おせち料理(ペーパークラフト)

久しぶりの静岡です

今年の4月から救急外来で勤務しています。伊東出身ではありませんが『静岡、なつかしいな』という気持ちでやって参りました。2004年の春、1歳になったばかりの子供をつれて順天堂大学静岡病院の救急診療科で勤務を開始し、ドクターヘリの立ち上げに関わらせてもらいました。数年勤務した後、岡山、徳島、愛知を経てまたこの静岡県で働くチャンスが巡ってきました。4月に勤務を始めると、救急隊の方から「先生、久しぶりですね!」と声をかけていただき、えええ、覚えていてもえええ!ととてもうれしくなりました。

伊東市民病院はどんな病院か?

救急医の私から言わせてもらうと、それはそれは『おかしな病院』です。こんなことを言うとは病院の偉い方々から怒られてしまうかもしれませんが、気を遣っているのではないかなと思うほど救急を一生懸命やっている病院です。私はこれまでいろいろな病院で救急診療をやってきましたが、病院の姿勢として「救急車は断らない」という信念を強く掲げ、病院職員に浸透させている病院はそうそうありません。病院職員はある意味、洗脳されているといってもいいほどで、次々と救急車を受け患者さんが搬入されて救急外来が大混雑になっても「何でこんなに忙しいのに次の救急車をとったんだ」とか「何で断らなかったんだ」とかいう人は一人もいません。

(心の中ではちよつぱりそう思っている人はいると思うのですが...) 病院で働いている我々も普通の人間ですから、一般的には多忙を極めた状況になると、そうやって次の患者さんを受け入れたことが悪いかの如くついつい言ってしまうがちですし、これまで働いてきた病院で幾度となくそのような場面に遭遇しました。痛い、つらい、どうにかしてほしいと言っている患者さんをどうにか診療したいと思っても、医師自身がちよつと手一杯だなと思ったり、周りが忙しそうにしていたりするとお断りしてしまうこともあるのですが、ここ伊東市民病院では『受けるんだ、そう、どうしたって受けるんだ』と腹をくくって、肅々と患者さんに向き合っていくことができます。救急車の応需率(依頼があったうちの何パーセントを受け入れているか)については、この数年、常に99%以上を保っています。これは医療関係者、特に救急に携わる人間からすると何かの間違いではないか!?と思うような数字です。

救急をやっている嬉しさ

そうです。受診された患者さんが「楽になったよ、ありがとうね」って言うってくださるととてもうれしいです。ケガをされて縫った傷が順調に治って抜糸する時も『よかった』と思いつつながら心の中でその傷跡をナデナデしています。



受診された患者さんが「楽になったよ、ありがとうね」って
言ってくださるととてもうれしいです。

救急をやっていたから気づいたのかな、と思うこと

いろいろとあるのですが…。病気やケガって、なるうと思っ
てなるものではありませんよね。特に救急外来を受診される
方は、昨日までは、さっきまでは何ともなかったのに急に調
子が悪くなったとか、ちよつとしたことでこんなひどいケガ
をしてしまったとか、思いもよらずに発生してしまったこと
への対処として、仕方なく受診している方がほとんどだと思
います。中には急に倒れて意識も呼吸もなく、救急隊の方に
蘇生処置をしてもらいながら受診される方もいるのです。

残念ながらそのままお亡くなりになる方もいらっしゃいま
す。残されたご家族はそれぞれの悲しみ方、悔やみ方でその
患者さんと面会されます。ほとんどの場合、やはり突然です。
突然別れがやってきて自分の家族を遠いところへ連れて行っ
てしまいます。何でもない日常、当たり前だと思っていた時
間が、これから先、全く同じ顔をして戻ってくることはない
ことを思い知らされます。「大往生だったねー、ありがとうね、
よく生きたねー」とその状況と向き合うご家族の方もいらっ
しゃいます。ですが多くの場合、突然突きつけられた別れに
動揺し、これまでと全く違う状況を目の当たりにし、様々な
ことに対して返答を求められ、事務的な手続きを迫られ、そ
の合間に悲しみやもつとこうしておけばよかったという後悔
が湧き出てくるようにみえます。生まれてきたからには必ず
この世を去る、と決まっているわけですが、それは自分の日
常には関係のない遠い世界のこのよう意識にのぼること
はほばないのではないのでしょうか。

私はこの仕事をしているからこそ時々そのような場面に
遭遇し、『今この日常が当たり前ではない』と患者さんやそ
のご家族から教えていただいているように思います。

お知らせ

冷汗が出るような体調不良、いつもと明らかに様子が違う
(意識やしやべり方、手足の動かし方など)、顔色が悪い、出
血が止まらないなどという場合にはすみやかに受診されるこ
とをお勧めします。周りにいらっしゃる方が連れて行けない
ような状況、危ないと思う状況であればすぐに救急通報して
ください。迷う場合には病院に電話相談してください。病院
に入っただけであれば病院職員が患者さんの状況等を判断
し、治療できる場所にご案内いたします。できれば救急外来
でお目にかかることがないことを祈っています。ただ日々の
仕事として診療するというだけでなく、自分の大切な人
だったらどんなふうにしてほしいか、どんなふうにしてあげ
たいか、それを実践できる救急外来でありたいと考えていま
す。皆様、お身体お大事になさってくださいね。

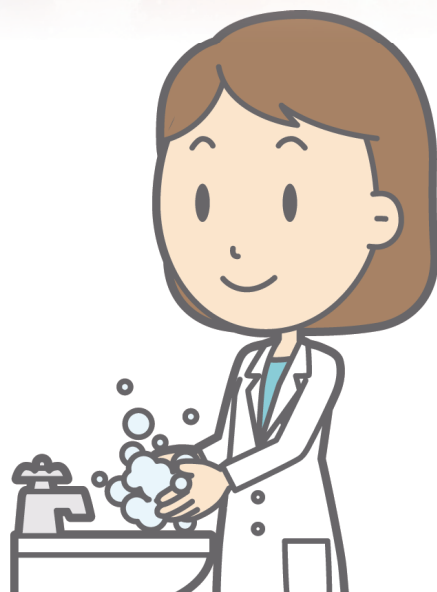


すこやか健康講座

2025 年 火
12月16日

13:30 ~ 14:30

13:00 より開場



冬の感染防止対策

講師

荒川 洋一

伊東市民病院 医師

島田 明恵

伊東市民病院 感染管理認定看護師

伊東市民病院 1F 講堂にて開催

事前申込不要です。お誘いあわせのうえ直接会場へお越しください。

荒天時も予定通り開催いたします。皆様のご参加をお待ちしております。

参加費無料

車でお越しの方には駐車場1回無料券配布します



公益社団法人 地域医療振興協会

伊東市民病院



0557-37-2626

〒414-0055 静岡県伊東市岡196-1

<https://ito-shimin-hp.jp/>

主催 伊東市民病院 広報委員会